



図版②



「落ち穂拾い記」

① 「雲烟(煙)過眼」の一行書
19世紀（江戸後期）

図版③



20代の頃からこれまで、古書店散策のあいまに、私なりに面白ないと感じた書の作品を拾い集めて楽しんできた。そうした中から数件を当時の思い出と共に紹介してみよう。この草書の一行作品は、20代の後半に私学高校の非常勤講師をしていたときに、同じく講師をされていたK大學の先生と雑談中に、このような書はどうですかとして紹介された作品である。草書の筆勢に驚き筆者も知らずに譲り受けた。後で江戸期の漢学者・東條一堂の書であることを知った。安永7年（1778）、今の千葉県茂原市に生まれ、幼名を和七郎といった。江戸に出て当時の能筆家で狂草に長じた龜田鵬齋の門に入り、古学を学び、さ

らに皆川淇園に師事した。寛政9年、文蔵と称し、諱は弘、字を士毅と名乗る。「吾道、一を以てこれを行く」の語に因んで一堂と号した。文化2年、官学の朱子学に対し、塾を湯島聖堂の隣に起し古学を講じた。のちに神田お玉ヶ池に移り多くの門人を輩出した。一堂は相当な書癖があつたらしく、鵬齋の狂草を通じる所のある独特の狂草や行草、楷書を残している。この「雲烟(煙)過眼」の草書4字は、まさに「起承転結の趣を凝縮させた見事な筆致を見せて」いる（図版②）。主図版①は、後半の転結にそうとうする「過眼」の2字を選んだ。署名の文字は、最後の文字が読めなかつたが、當時、古書や書画のお好きな先輩に「一堂山人弘」（図版③）と読むのだと教えられた。筆者の書斎名は、その後求めた一堂の楷書「木鶴」の2字に拠っている（図版④）。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。

図版④



書道芸術院

平成の群像 (2016)



田 中 梢

書・師との出会い



第68回書道芸術院展「淨瑠璃寺」

原稿の依頼を受け、はたと困ってしまいました。作文の苦手な私にとってただ日が過ぎていくのみでしたが、自分の今まで振り返ってみようと思いベンを運びました。

書のかかわりは、子供が小学生の時PTAの文化委員をし、そこで開かれてる書道部で久し振りに筆を持ったことです。しばらくして教室の先生の紹介で砂本杏花先生にお会いすることができました。羽衣（大阪府高石市）には「日展特選をとられた立派な先生がいらっしゃる」という話、縁あって杏花先生とのつながりが出来、段々と書の魅力に触れてきました。

白扇会の種谷扇舟先生には、わざわざ関西へお越しの時は、拓本を見せていただいたり、お話を聞き、勉強させていただきました。また書道芸術院の恩地春洋先生はじめ、多くの先生方のお話を聞き、書の奥深さを実感しました。何よりも直接御指導下さる砂本先生の書に対する感性と、みなみならぬ努力、常に前を向いて進まれるお姿を拝見し、私もその感性の一片でも吸収したいと思って現在に至っております。先生が平成18年に杏花書作展を東京で開催された時、その作品創りのお手伝いをさせていただいたことが私の大きな刺激となりました。しかしその後家庭の事情でなかなか作品がつくれる状況ではありますでしたが、東日本大震災にあわれた人達を見て、自分も前向きにこれからを無理なく過ごして行きたいと思っています。

今ある事は家族の深い理解あってのこと、感謝でいっぱいです。

この作品は昨年芸術院に出品したものですが、淡墨の色がよく出て私にとって思い出の作品です。淨瑠璃寺のなつかしい思い出、馬酔木など……。今、家庭の馬酔木が可憐な花を咲かせております。これからも人との出会いを大切にしてまいりたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

書のひろば

理事長 辻 元 大雲

全日本書道連盟助け合い募金

公益社団法人全日本書道連盟が行っている助け合い募金運動は、連盟評議員以上の役員と維持・賛助団体による募金拠出により毎年約400万円が寄せられ、日本赤十字社及び中国大使館を通じて中国における芸術文化振興のために贈られる。平成27年度の募金は400万円を若干上回る金額が寄せられ、4月13日星弘道連盟理事長と辻元大雲事務局長が訪問し、300万円を日本赤十字社に、100万円を中国大使館に寄贈した。ご協力に感謝申し上げたい。



日本赤十字社にて贈呈式

名久井裕三遺作展盛況に
銀座では玉松会書展も

本院元名誉会員の前衛書部名久井裕三先生の遺作展が3月25日～27日、青森県八戸市美術館で開催され、生前の主要作品が1・2階全館使用して盛況に開催された。黒潮書道会（石田和子会長）主催で書道芸術院ほかの後援もあり、名久井芸術の集成として意義ある展覧であった。詳細の報告は別項にて。

また4月5日から10日まで石井明子会長率いる玉松会書展が銀座かねまつホールで開催、「星」をテーマに多彩なかな書の魅力を振りまいて賑やかであった。



八戸の会場にて板垣洞仙理事（右から3番目）と石田会長（左から3番目）

第68回毎日書道展事務局合同会議
4月13日午後、如水会館にて第68回

祝賀会盛大に
4月25日東京赤坂、ホテルニューオータニにて、協会創立60周年を祝う会が600余名の参会者で盛大に開催された。本院は協会の法人会員として創立以来協会の運営に協力しており、故香川峰雲、種谷扇舟先生などが常任役員として歴任しておられる。現在辻元大雲が常任委員として協会の運営に携わっていいるほか多くの会員が加盟している。

現在の日中を取り巻く環境はあまり芳しいものではない状況だが、こと芸術文化に関しては国境を越えての友誼が強く結ばれていることを忘れてはならない。黒井千次会長の挨拶はそのことを強調されており、来賓の程永華駐日本特命全権大使のご祝辞も芸術文化交流の意義を高く評価され、日本中國文化交流協会の60年の歴史と功績を高く讃えられた内容であった。

お詫び
前号（660号）毎日新会員展出品者に左記の方が漏れました。お詫びして追加させていただきます。

大字書部 松浦智属（第4期）

日中文化交流協会創立60周年記念祝賀会盛大に

4月25日東京赤坂、ホテルニューオータニにて、協会創立60周年を祝う会が600余名の参会者で盛大に開催された。

本院は協会の法人会員として創立以来協会の運営に協力しており、故香川峰雲、種谷扇舟先生などが常任役員として歴任しておられる。現在辻元大雲が常任委員として協会の運営に携わっていいるほか多くの会員が加盟している。

現在の日中を取り巻く環境はあまり芳しいものではない状況だが、こと芸術文化に関しては国境を越えての友誼が強く結ばれていることを忘れてはならない。黒井千次会長の挨拶はそのこ

とを強調されており、来賓の程永華駐日本特命全権大使のご祝辞も芸術文化交流の意義を高く評価され、日本中國文化交流協会の60年の歴史と功績を高

「書道藝術」春季特別昇級試験実施

例年春と秋に実施される特別昇級試験は競書部門応募者にとり数少ない昇級のチャンスである。特に上位段位者にとってはこの機会しかなく、更に最高師範までに至る試験は三種実施科目に限られ、今回は漢字条幅とか半紙のみが実施科目であった。

臨書から創作まで多様な試験科目をクリアするためには相当な努力が求められる。試験科目の練習そのものが実力を養成するいい機会もある。日頃から基礎基本を大事にこつこつ継続した努力が実を結ぶことになる。



黒井千次会長のご挨拶

現代詩文書 (二)

畠中弄石書

漢字 (二)

稻垣小燕書

墨色について

今回は現代詩文書を創るにあたって墨色について少し述べておきます。詩文書作品を創る場合は特に墨色を大切にしています。意志的な素材には勿論濃墨を使い、力強く表現しています。



依田明倫句「オリオンは難船の星櫓を駆る」

畠中弄石書

果的です。(勿論画仙紙によって滲み方も違いますが……) そして滲みを多く表現する場合は余白も多くのとる必要があります。線も太めで短めの方が余白が生かされます。滲みを表現しない場合は渴筆を生かします。

今回の作品は依田明倫の句、「オリオンは難船の星櫓を駆る」です。

あまり滲みを求めるらず潤渴、特に渴筆の線の鋭さを見せ場にして立体感を狙いました。強い線の中で淡墨で叙情性が出てればとの思いです。

す。俳句などの短詩型の素材には淡墨をよく使います。松煙墨の和墨が墨色として美しい、叙情的な作品作りに合います。淡墨作品を創るときに私は澄泥硯を使います。程よい滲みが出て効果的です。(勿論画仙紙によって滲み方も違いますが……) そして滲みを多く表現する場合は余白も多くのとる必要があります。線も太めで短めの方が余白が生かされます。滲みを表現しない場合は渴筆を生かします。

21世紀の書 —私の主張—



「言靈」

稻垣小燕書

・言葉の意味と表現

書作においては言葉の意味を理解せずに作品表現は成り立たないと考えている。

「言靈」の意味は日本語で「言葉の幸はふくぞま幸くありこそ」

万葉集三二五四

言葉には不思議な靈感が宿っていて、その力が働いて言葉通りの事象がもたらされる。日本の国は言靈の働きによって幸福をもたらす國と、古代より言葉がもつ重要性が示されているのである。

書き手が言葉を作品として表現するとき、その言葉の持つ意味や使われ方さらには言葉の出生まで遡り理解することで制作のスタートラインに立てるのだと思う。それらを掌握して後、自己の内で言葉と一体になったと実感した時、その言葉が作品となる。

「言靈」を作品制作するにあたり、字體は神靈を表す為に楷書を用い、線質は剛毛でゆるぎなさを表し、墨は深遠な世界を醸し出せるように玄を用いた。

第69回書道芸術院展統(併催 第67回全国学生書道展)

(併催 第67回全国学生書道展)

特集：第69回書道芸術院展

実行委員長 大野祥雲
 第69回書道芸術院展(併催第67回全国学生書道展)について、平成27年3月14日開催の理事会に於て、その大綱が次のように決定された。

○第69回書道芸術院展

1.会期 平成28年2月17日(水)～2月21日(日)

2.会場 東京都美術館(上野公園内)

3.募集規定

ア.無鑑査、一般部公募の部

・作品・書類搬入

・鑑別・審査 平成28年1月10日

イ.審査会員、審査会員候補の部

・書類搬入 平成28年1月29日

・作品搬入 平成28年2月8日

ウ.審査

・審査会員候補 平成28年2月9日

・審査会員 平成28年2月10日

4.表彰式(学生、一般部)

平成28年2月20日

5.祝賀懇親会(帝国ホテルにて行う) 平成28年2月20日

6.作品研究会(都美術館に於て行う) 平成28年2月20日

7.出品作品サイズ(単位cm)
 1.財団理事・監事 A.180×180 B.120×240
 2.その他 変更なし
 8.一般公募出品料
 1.30歳以上 7000円
 2.30歳未満および70歳以上 (平成28年1月1日現在)
 (平成28年1月1日現在) 3000円

○第67回全国学生書道展
 1.出品規定
 ア.出品資格
 第1部 幼稚園、小学生
 第2部 中学生
 第3部 高校生
 第4部 大学生、専門学校生

イ.部門 ①半紙の部 ②半切の部
 部、両部門に出品できる。

ウ.作品縦め切り・搬入
 平成27年10月26日(月)

エ.審査
 平成27年11月5日(木)～7日(土)

オ.褒賞 A.個人賞 B.団体賞

2.運営委員会
 運営委員長 辻元大雲以下実行委員長、実行副委員長、陳列部長、会計部長、事務局長、次長は院展、学生展共通。

3.実行委員長
 下谷洋子
 千葉蒼玄
 牧泰濤
 浜田堂光
 大野祥雲
 小竹石雲
 前田龍雲
 三浦鄭街
 下谷洋子

4.実行副委員長
 前田まさ美
 学生展総務部長
 学生展審査部長
 学生展表彰部長
 学生展揮毫部長
 生田翠龍

5.事務局長
 事務局次長
 事務局次長

6.陳列部長
 総務部長
 審査部長
 田村鄭雲
 江本興舟
 後藤大峰

3.審査員
 A賞審査員(6名)、A賞選考委員(8名)、中央審査員(22名)

※無鑑査作品について
 褒賞院賞、毎日新聞社賞、特選、秀作とし従来通りとする。

○選考委員は運営委員(財団理事・監事)が担当。

4.指導者作品展示
 ア.出品資格
 ・本展出品指導者
 ・書道芸術学生版「指導者
 書道芸術院審査会員」
 イ.作品寸法
 ・半紙額内自由
 ○運営委員会
 第69回書道芸術院展 運営委員会を
 平成27年6月13日(土) 東神田事務所に
 於て開催。
 ○運営委員の作品について
 褒賞書道芸術院春華賞(1名)と
 する。
 ○選考は運営委員(財団理事・監事)
 が担当。名誉会員、参与会員、選考
 委員、参事で過去の理事・監事経験
 者、過年度受賞者は対象外。これま
 でと同様同賞候補作品には赤シール
 を添付し公表する。
 ○審査会員候補の作品について
 褒賞書道芸術院大賞、書道芸術院
 準大賞、白雪紅梅賞については従来
 通りとする。なお、同候補となつた
 作品については昨年と同様「書道芸
 術院俊英賞」とし、白雪紅梅賞(1
 点)の1/4(0.25)とし、審査会員昇
 格(取得条件2点)への得点化を行
 う。
 ○選考委員は運営委員(財団理事・監
 事)が担当。

5.指導者作品展示
 ア.出品資格
 ・本展出品指導者
 ・書道芸術学生版「指導者
 書道芸術院審査会員」
 イ.作品寸法
 ・半紙額内自由

特集：第69回書道芸術院展

○審査員

漢字部主任・小川弘舟はじめ12名。
かな部主任・平川峰子はじめ3名。
現代詩文書部主任・山田梓江はじめ11名。篆刻・刻字部主任・小林古徑はじめ2名。前衛書部主任・太田蓮紅はじめ6名。

○審査事務委員

漢字部主任・大野幽竹はじめ12名。
かな部主任・酒寄光子はじめ3名。

現代詩文書部主任・金木和子はじめ11名。篆刻・刻字部主任・津村紫幸はじめ2名。前衛書部主任・大石仙岳はじめ6名。

○一般公募作品について

褒賞 入選作品のなかから審査して、
準特選、佳作、褒状を与える。

○漢字部主任・崎井恵風はじめ12名。
かな部主任・木村東舟はじめ3名。
現代詩文書部主任・広瀬舟雲はじめ11名。篆刻・刻字部主任・佐藤香山はじめ2名。前衛書部主任・大井美津江はじめ6名。

○審査事務委員

漢字部主任・那須野明花はじめ12名。
かな部主任・篠田祐子はじめ3名。
現代詩文書部主任・鈴木秀晴はじめ11名。篆刻・刻字部主任・丸山筑峰はじめ2名。前衛書部主任・福島李舟はじめ6名。

○評論家の眼は從来通り実施。
○実行委員会 第69回書道芸術院展 実行委員会を平成27年6月13日(土)東神田事務所に於て開催。

○運営委員長

辻元大雲はじめ実行委員長、実行副委員長2名、院展関係の各部長、事務局長・次長、会計部長等出席していただいた。

○第69回書道芸術院展 併催の第67回学生展についての部員と日程について確認した。

部ごとの序列を決めた上で、漢字から前衛書部までの5部門のトップの作品を並べての最終投票。書道芸術院大賞

輝いた。更に書道芸術院準大賞5点（漢1、現詩3、前衛1）、白雪紅梅賞

10点（漢4、かな1、現詩2、篆刻

10点（漢1、前衛2）、書道芸術院俊英賞

62点を決定。

○審査会員に対する書道芸術院春華賞の選考

平成28年2月10日(水) 東京都美術館地下審査室で19名（1欠）の選考委員によって行われた。

各部より20%の賞候補、更に1/2に絞り、無鑑査に對する院賞16点（漢6、かな6、現詩16、篆刻・刻字2、前衛3）、現詩5、篆刻・刻字1、前衛3）。毎日新聞社賞5点（各部1）、特選121点。秀作264点を決定。入賞率40%

○審査会員候補に対する特別賞選考の選考

平成28年2月10日(水) 東京都美術館地下審査室で20名の選考委員によって行われた。

各部より10%の枠で賞候補を選考。

○第69回書道芸術院展 実行委員会を更に1/2に絞り、全体の選考対象作とする。選考委員の記名投票によって、各

審査員22名によって行われた。優秀

審査員6名、A賞選考委員8名、中

央審査員22名によって行われた。優秀

審査員6名によって行われた。優秀

部ごとの序別に展示され見事であった。

また、優れた作品を沢山出品して下さった団体の中で、千葉県の「正華会」が全国優勝に輝いた。

第67回全国学生書道展で、都美術館では見応えのある作品が地区別に展示され見事であった。

また、優れた作品を沢山出品して下さった団体の中で、千葉県の「正華会」が全国優勝に輝いた。

特集：第69回書道芸術院展



格調高い表彰式

ばれた。

○全国学生書道展表彰式

平成28年2月20日(土)午後13時より、帝国ホテル富士の間に於て、毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様、顧問・小竹村先生をお迎えして表彰式を挙行した。

表彰状の授与は、運営委員長・辻元大雲はじめ財団理事、監事が務めた。

毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞について、糸賀靖夫様にお願いした。

帝国ホテルでの二回目の表彰式。事務局次長・三浦鄭街の手配もよく、良い表彰式を挙行。総務部長・前田まさ美、表彰部長・平川峰子、揮毫部長・生田翠龍の各氏にお礼を申します。

○表彰式
学生展表彰式に統いて同会場にて、書道芸術院展の表彰式が挙行された。

ご来賓は毎日書道会専務理事・糸賀

靖夫様、顧問・香川倫子様、小伏竹村様をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞は、理事長・辻元大雲より授与。以下の各賞につい

ては、財団の理事、監事によって授与。糸賀様には毎日新聞社賞の授与とともに

激励のご祝辞をいただいた。
最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いたかな部・京絹子さんから謝辞があつた。

○祝賀懇親会

2月20日(土)18時より帝国ホテル孔雀の間に於て行う。

開宴に先立ち、昨年毎日書道顕彰芸術部門受賞の小竹石雲様、さらに第67回毎日書道展文部科学大臣賞を受賞された下谷洋子様のお一人に本院より慶祝の記念品贈呈が行われた。

開宴は大野祥雲常務理事のことばで開会。辻元大雲理事長の主催者あいさつ。続いて、毎日新聞社常務執行役員・

広田勝己様、(公社)全日本書道連盟理事長・星弘道様、書道評論家・麻生康久様よりご祝辞をいただいた。

乾杯は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様のご発声で開宴。

なおご来賓は、伊藤滋先生はじめ報道関係者、評論家の方々約30名がご出席いたいた。芸術院の仲間も50余名

が出席。和やかな宴となつた。そのうち評論家の眼の紹介。69回展で春華賞受賞の京絹子さんたちのよろこびの声をお聞きし、宴だけなわとなつた。

最後に小竹石雲常務理事のことばで

宴を閉じた。

○祝賀会 表彰部

三森慧香部長のもと、佐藤希雲、麻生峰扇さんたちの誘導のよさもあってとても盛況のうちに終了。係の皆様にお

スムースに進行。表彰式、祝賀懇親会ともに盛況のうちに終了。係の皆様にお

○作品研究会

2月21日(日)午前、展示会場第1室に於て研究会を行ふ。沢山の方々が参加して下さり充実した研究会となつた。

担当は漢字・大野祥雲、かな・下谷洋子、現詩・小竹石雲、篆刻・刻字・

後藤大峰、前衛・板垣洞仙の各部の代表選考委員が行う。最後に辻元大雲理事長が総評を行つた。

担当は漢字・大野祥雲、かな・下谷

○審査部

会計部は院展の全ての部署との連携を保ち陰のささえとしてご尽力していただいた。膨大な予算を緻密な計算によつて誤りなく処理していただいたご苦労に対し、白石和楓部長に心から感謝申します。

○会計部

会計部は院展の全ての部署との連携を保ち陰のささえとしてご尽力していただいた。膨大な予算を緻密な計算によつて誤りなく処理していただいたご

○運営事務局

院展、学生展、運営の全てに関わり、

膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の(株)リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出に始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録作成、作品配置、祝賀会座席配置など、総務、審査、陳列、祝賀会、表彰、会計とあらゆる部署との事務処理に関わつてはいた。

前田龍雲事務局長、東福青堂・三浦鄭街事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。

した。ベテラン委員の方々によって大過なく遂行していただいた。

江本興舟部長はじめ副部長、委員の方々にお礼申します。



賑わう作品研究会

○総務部

総務は学生展、院展とともに作品、書類の搬入、整理、審査準備、撤回、搬出、学生展作品の返送作業など大変で

○運営事務局

院展、学生展、運営の全てに関わり、

膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の(株)リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出に始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録作成、作品配置、祝賀会座席配置など、総務、審査、陳列、祝賀会、表彰、会計とあらゆる部署との事務処理に関わつてはいた。

前田龍雲事務局長、東福青堂・三浦鄭街事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。

皇甫誕碑（唐・歐陽詢）②

特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）

当該古典の左記掲載
部分以外も可。

（解説）歐陽詢の楷書碑として、皇甫誕碑・化度寺碑・九成宮醴泉銘・溫彥博碑の四碑がある。この中で皇甫誕碑がもっとも峻険遒勁な（鋭く力強）の持ち方は側筆（筆管をやや傾け、穂先が画の外側を通るように書く）で、細く引き締った線で書かれ、筆は剛毛筆が適している。（編集部）



(85%縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

よみ ほのぐとあかしのうらのあさぎりに
しまがくれゆくふねをしづおもふ人丸

わたのはらやそしまかけてこざいで
ぬと人にはつげよあまのつりぶね野

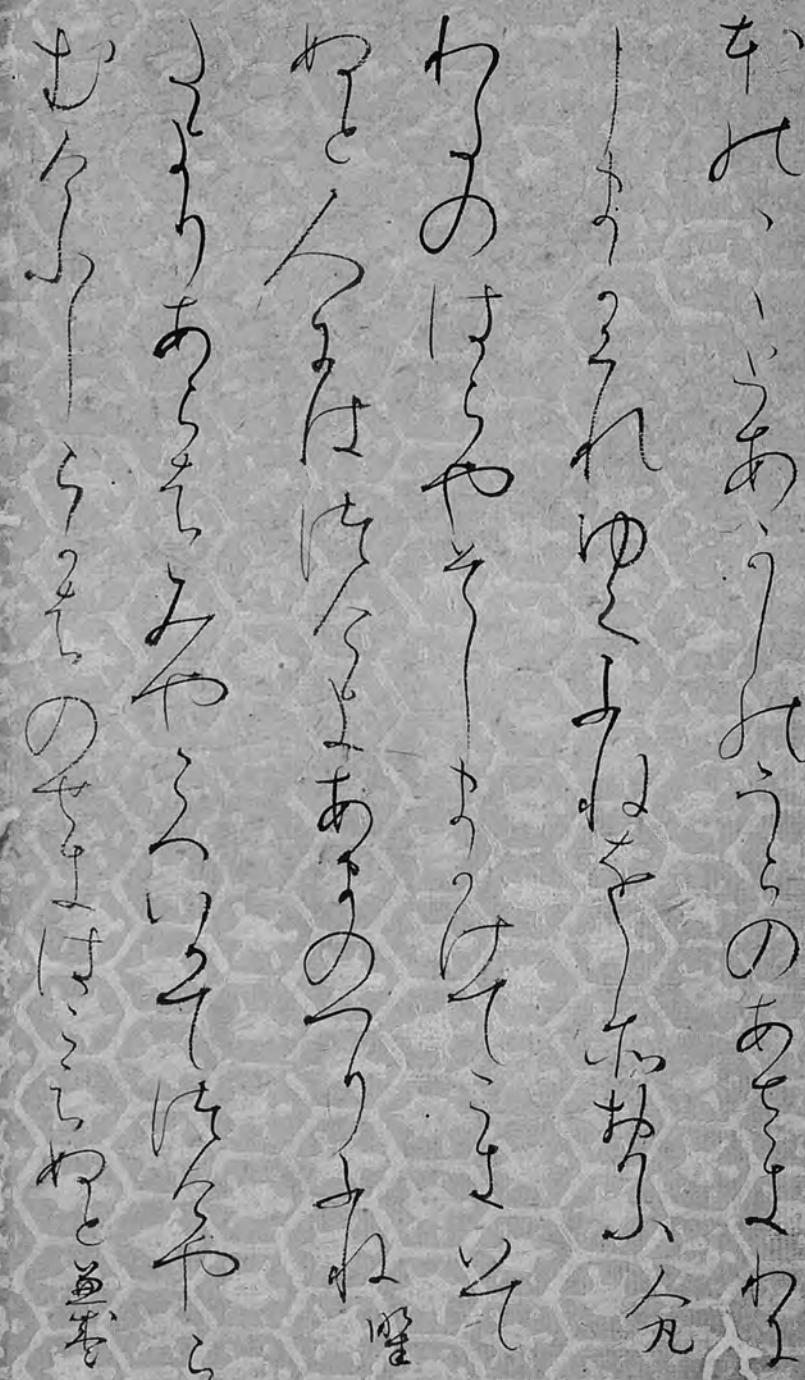
たよりあらばみやこへいかでつげやら
むけふしらかはのせきはこえぬと兼盛

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)



解説

粘葉本和漢朗詠集の料紙は、中国から舶載の唐紙(縦20cm×横12.1cm)で、草・薄茶・黄・薄赤・藍など色彩豊かな具引きをした染紙の表に、唐草・雲鶴・亀甲などの型文様を白または黄の雲母で刷り出した華麗なものである。裏側は無地の染紙である。

今回掲載の部分は、淡藍具引きに白雲母の小龜甲文を刷った料紙に書写されている。(編集部)

※掲載図版は原寸。

(宮内庁蔵)

習い方解説 (二)

半田藤扇

長樂無極
(長樂極り無し)

幾久しきたのしみがいつまでも
つきぬ。

今月は、重厚さを表現。顔真卿
の「争坐位稿」のイメージを大切
に書作してみました。

各々、文字の中心を踏まえて、
小粒でありますながら、太細の線に心
がけてみて下さい。

鋒先を利かし、行書の有美な表
現を筆に託すのも如何でしょうか?
4文字が異なる造形を持つていい
るので楽しい文字構成が出来ると
思います。

△例

長・樂・無は、長い横線の位置、
それを挟む上下の構成。
極は、偏と旁のバランス

羊毛筆を使用しました。

長樂無極 よみ(長樂極り無し)

書体=自由



習い方解説(二)

竹本龍汀

新春松桂香
(新庭松桂香し)
(蘇東坡)

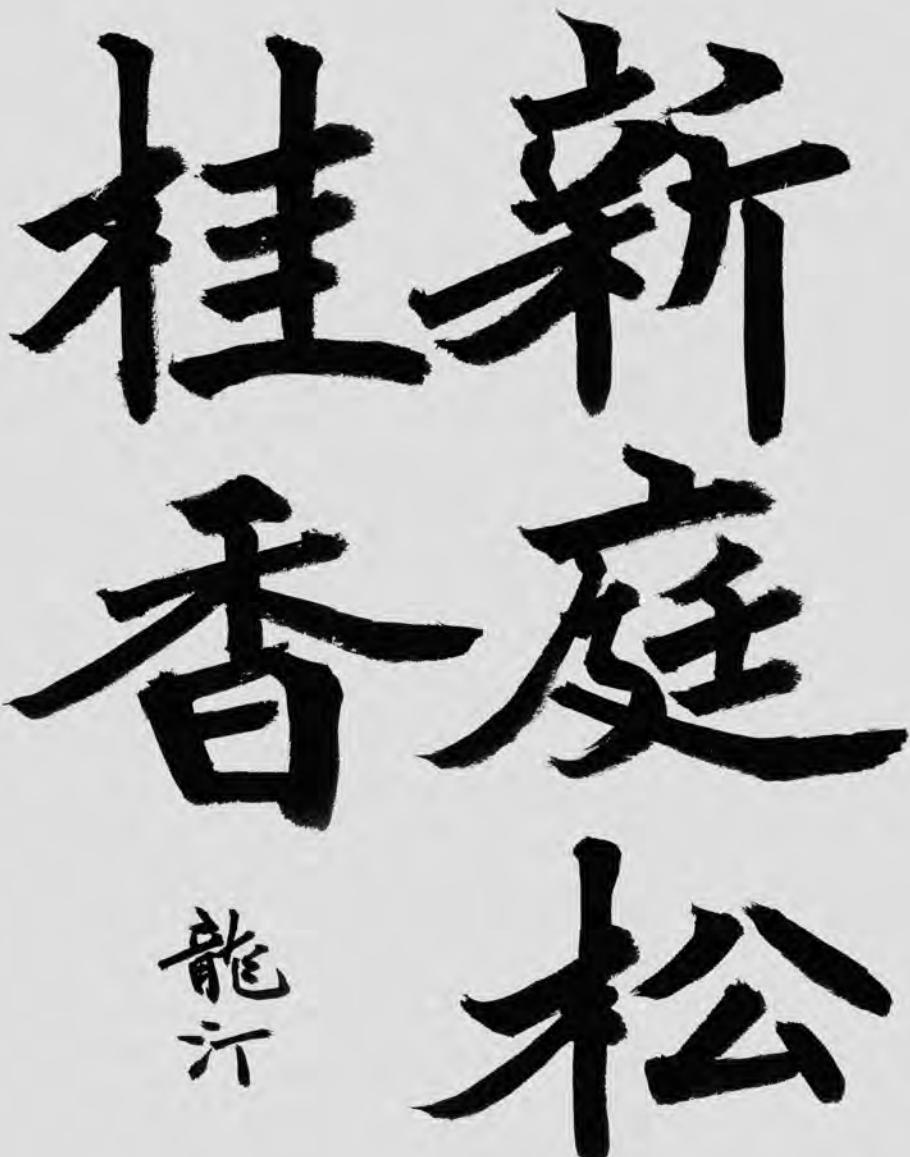
新春の句だが、匂わんばかりの
初春の庭に松や桂が緑ゆかしく
におわんばかりである。

新春の句だが、匂わんばかりの
新春の意に、新緑の季節が重なり、
すっきりした広い庭と爽やかな空
気感のイメージが浮かんだ。結果
余白を明るく取って六朝の用筆で
伸び伸びと書くことにした。

中国の南北朝時代(北朝)で発
達した代表的楷書に高貞碑と張猛
龍碑がある。高貞碑はキリッとし
た起筆の弾力を維持しながらすっ
きりと筆を運ぶ。收筆で力を抜き
字形は端正。一方、張猛龍碑は力
強い起筆で右上り、勢いに任せて
送筆するに従って細くなる。かな
り大胆で字形も変化に富む。課題
は高貞碑に近い感じで書いた。

字画の多い課題のため、余白を
美しく取るのは難しいと思われる
が、六朝の書はスッキリと明るく
書くのに向いている。ぜひ、挑戦
されることを望む。

書体=楷書

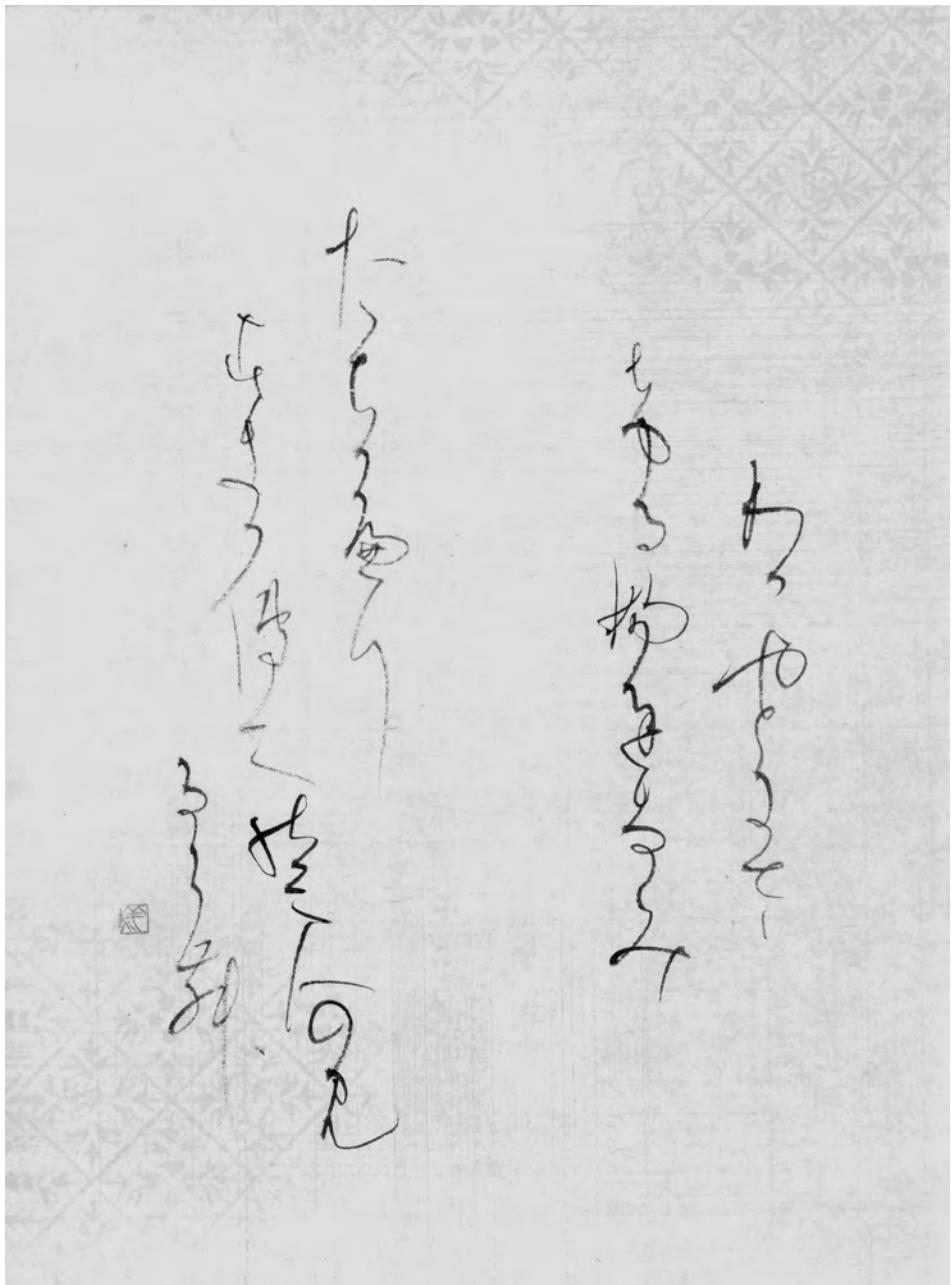


かな規定 初段以上【六月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷洋子選書

習い方解説 (二)

下谷洋子



わが宿にさける藤波立ちかへり
すぎかてにのみ人の見るらむ
(古今集 脊恒)

ややこすれまくら

かなは連綿することによって動か
いて見えます。この動くについて
考えましょう。

字幅の変化

字幅が同じでは動くことにならない。
変体がなを生かして自然な組
み合わせを試みる。

疎と密

字と字との間隔が同じでは動かない。
連綿線に長短をつけたり、小
さな文字を配して密な部分を作る。
或いは連綿を切って間(疎)をと
るのも一案。

よみ方 わが(可)宿(やと)に(尔)さけ(希)る藤波(婦運奈み)立(た)ちか(可)へ(遍)り
す(春)ぎ(支)か(可)て(傳)に(一)の(能)み(三)人の見るらむ(舞)

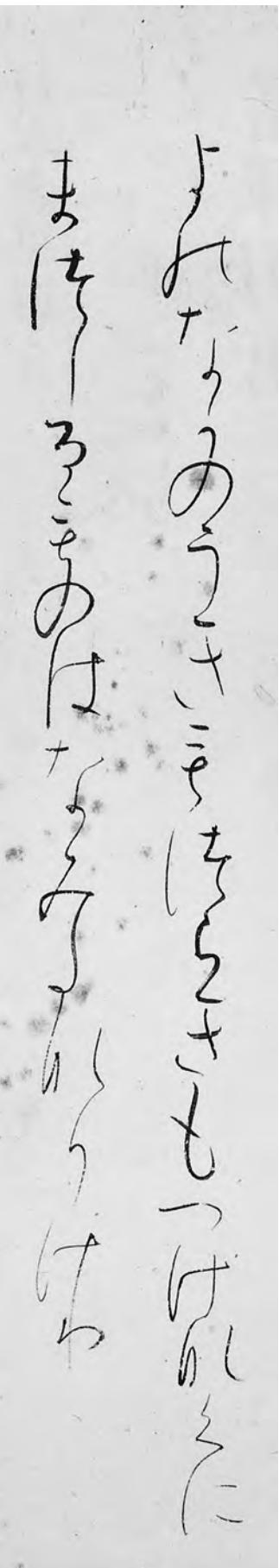
創作

連綿は長ければかなになるという
わけではありません。ただ続けて
いるだけでは美しくない。字間の
変化や方向などにも気を配ること
が大切です。針切には12字ほどの
連綿が見られます。伸びたり縮
んだり本当に美しい流れです。連
綿の工夫については、高野切など
で基本的な方法をつかむこと。古
筆を学んでない方の連綿はすぐ判
ります。

かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 よの(能)なか(可)のうきも(毛)つ(徒)らきもつげな(那)く(久)に

まび(徒)しるも(毛)のはなみだ(多)な(那)りけり(利)

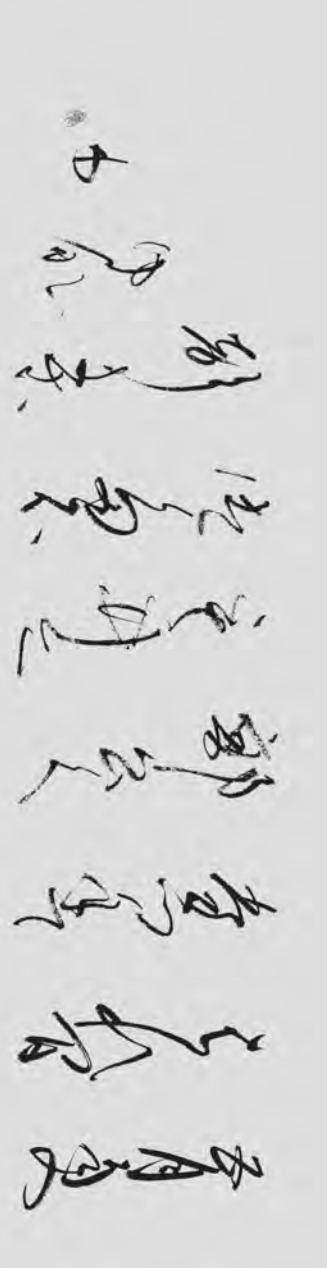
習い方解説 (二)

木村東舟

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

さみだれの晴間尋ねて郭公
雲井につたふ聲聞ゆなり
(山家集)



横作品は、1行の長さが短いので、流れを出しにくいものです。たての流れを考えながら横への展開も意識して、横に張れる文字を組み入れたり、行間の余白のとり方等工夫してみましょう。「五月雨」「郭公」「聲」等をポイントに、華やかに書き上げて下さい。

*よじ形式に限る

創作

出品券
貼付位置

よみ方 さみだれ(五月雨)の晴(者れ)間尋(堂川)ね(年)て 郭公
雲(久毛)井に(1)つ(徒)た(多)ふ(不)聲き(支)こ(古)ゆな(那)り(利)

出典: 『書道』(1974年)

飯田春香



書体=自由



天は高く晴れて無数の星がとて
も近くに見える、の意。木簡を基
調にしました。木簡の筆法は漢字
だけでなく現代詩文書・前衛書に
も大いに活用できます。今月は躍
動感ある闊達な運筆に挑戦してく
ださい。私は早く運動を主体に、
蔵峰・逆筆で運筆しました。

漢字条幅規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

尾形澄神選書

習い方解説 (二)

尾形澄神



書体=自由

庭に木蔭が広がる午後、昼寝か
ら覚めると枝を渡る鳴が一声鳴い
た。何ともどかな光景です。
「覚」と「鳴」2つの冠が近くに
揃わないよう1行目の字数を多く
してみました。歯切れの良さを心
がけ、やや細い線ですっきりとま
とめました。

*たて形式に限る

習い方解説 (二)

廣瀬舟雲

春過ぎて夏きたるらし白たへの衣は
したり天の香具山 万葉集が作られた
奈良時代は、日本語を日本語の語順の
まま書き表そうとしたときに、付属語
や固有名詞など日本語特有のものは、
漢字の音訓を借りて表しました。また、
文全体を漢字の音訓のみを借りて書き
表す方法も生み出しました。これらは
「万葉仮名」といいます。今日では
「天の香具山」と書きますが、原文は
「天之香来山」と表記されていますの
でご注意ください。これらは、まだ平
仮名が無かった時代の日本人の知恵と
言えましょう。ペン字の「上達のコツ
2」は、「望ましい持ち方」でペンを
持って書くことです。書き易いペンが
見つかったら、この持ち方を意識して
書く習慣をつけましょう。毛筆の持ち
方は正しいのに、なぜかペンの持ち方
は一考を要する人がかなりおられます。

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

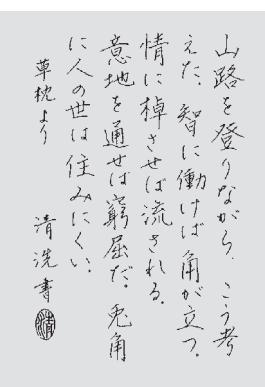
書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

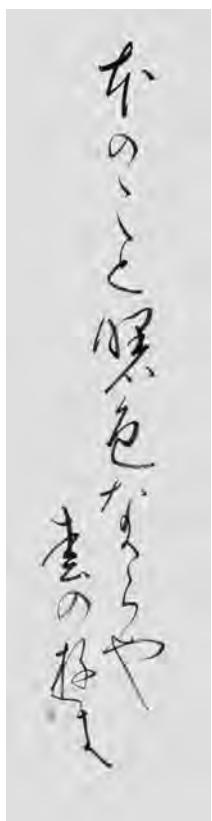
ホープ作品 各部総評

No. 659



山路を登りながら、こう考
えた。智に働きは角が立つ。
情に棹さばは流れれる。
意地を通せば窮屈だ。先角
に人の世は住みにくい。
草枕より 清洗書

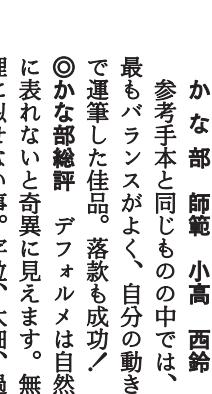
ペン字部 師範 深堀 清洗
一字の中に心の豊かさと品格がある。流れも自然で、落款まで布置も見事で美しく完成度の高い作。◎ペン字部総評 流れとまとめが良い作品が多く良かった。誤字(窮・兎)が多く、行書のくずし方の研究をなお一層望む。(和楓評)



前衛書部 特選 高原 紗秀

濃墨でスピード感に溢れ、余白処理も見事な作。細部への配慮で更なる飛躍が期待できる。

◎前衛書部総評 明るく現代的作品が多く好ましいが更なる新しい書線の取組を望みます。(仙草評)



現代詩文書部 特選 込山 美艶

懐の広い字形で大らかで安定感のある作風。線の太細が白の美しい表現に成功している。

◎現代詩文書部総評 一本の線の根底には積み重ねた臨書があるような線質を望む。(素雪評)



漢字条幅部 師範 鳩雲 煙月

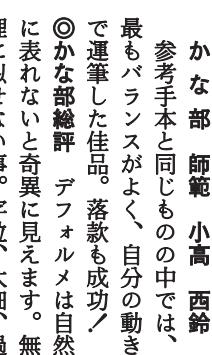
隸書体を鶏毛筆(?)で書いて独自性を出した。「多」に見られるような細い線も強く見事な作。

◎漢字条幅部総評 学ぶ機会の少ない横作品を懸命に取り組んでいた。下級課題「々」が「々」となることを学ぶ。(翠風評)



かな条幅部 師範 齋藤 杏園
参考手本の行き届いた觀察が気負いのない書きぶりとなり見事。

この上は墨量変化の研究を望む。◎かな条幅部総評 曙の曖昧な字散見は残念。紙面と字の大きさ、墨量の微妙なバランスを全方向から勘案し美を創ること。(明子評)



かな部 師範 小高 西鈴

参考手本と同じものの中では、最もバランスがよく、自分の動きで運筆した佳品。落款も成功! で運筆した佳品。落款も成功! デフォルメは自然に表れない奇異に見えます。無理に似せない事。字粒、太細、過剰は品を欠きます。(洋子評)

漢字部 師範 東 花子

抑制のきいた力強い筆致で充実の作。重量感と直線のリズムが調和して技術の確かさを物語る。

◎漢字部総評 上級書体自由であり多様な表現が可能。更に積極的な取り組みを。下級は楷書のみだが多様な書風への挑戦を。(大雲記)



参考手本の行き届いた觀察が気負いのない書きぶりとなり見事。

この上は墨量変化の研究を望む。◎かな条幅部総評 曙の曖昧な字散見は残念。紙面と字の大きさ、墨量の微妙なバランスを全方向から勘案し美を創ること。(明子評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



大友紅蓉書

180×60cm

前衛書

(蓮紅社)

大友紅蓉 「繋ぐ」

◆下部左下の処理が軽すぎたが、細い線の構成が独創的で人を引きつける作品となった。(慧香評)

◆切れ味の良い深い黒の直線と渴筆のコントラストにより、生命感溢れる作品となった。重量感不足か。(鄭雲評)



阿部雅悠臨

148×40cm

臨書
(秀惠)

阿部雅悠 「書譜」

◆細字で書かれた原帖を大字の一行書に臨書として表現するにはやや写実的過ぎたか。達者な腕である。(翠風評)

◆墨量十分で運筆に迷いなく堂々の気迫。1行構成も巧み。落款と印に気を配れば更に完成度が増した。(鄭雲評)

◆筆勢の強弱でなめらかになりズムを作り、重さを程よく抜いてはいる。落款の文字とその位置に工夫を。(慧香評)

◆バランスのよい布置。獣がこの作品を魅力的にしている。落款の位置が少し高いのではないか。(峰子評)

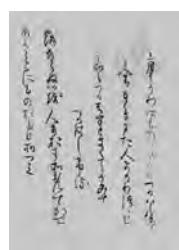
臨書 (千葉) 平野笛舟 「本阿弥切」



平野笛舟臨

55×168cm

部分拡大



◆原本の洗練洒脱な筆線にせまるリズミカルな筆の回転は緻細さだけではない魅力を感じる。(峰子評)

◆「本阿弥切」のリズムを得て作りである。料紙も考慮されていて美しい。長文ながら楽しんで書いている。(翠風評)

◆安定した臨書で、離れて見ても、それぞれの箇所に明確な主張が感じられる。中盤の抑揚が良い。(鄭雲評)

◆本阿弥切の特徴をよく汲み取り、筆線に汲みを作らずに全体がしなやかである。(慧香評)

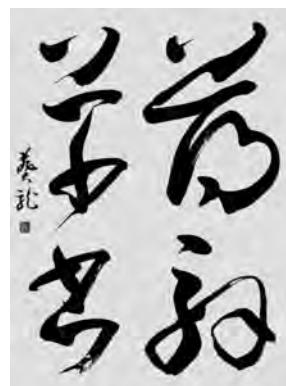
(慧香評)

◆余白のバランスがいい。多彩な線や面とも見える組み合わせが紙面全体に響きわたり好感度高い作品。(峰子評)

漢字研究部
(書譜)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



西山 美 龍

漢字研究部 特選 西山 美龍
じっくりと線を沈めながらも弾力と軽快さ
を兼ね備え、起筆・終筆の處理も素晴らしい。
また線の肌も美しく、落款の書き方もちょうど
良い。惜しいのは「解」の最後の終筆が点
一つに見えるところ。ここは二つの点を表し
ます。

◎漢字研究部総評

今月号の課題は書譜の中でも華やかな書き



まつみ 昭友洋紫
江子華里華泉

景孫梨正光雅
峰功秀子子悠

奎雅真雅須美
心泉美芳寿和

祥香紅龍
潤みどり博雲

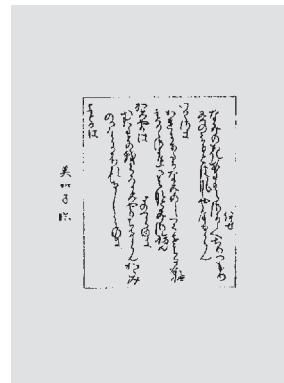
方がしてあるところ。筆が躍動しているため、
ただ「見えるよう」書いてしまうと誤字となる危険性があります。活字と字典を確認して、実画と虚画の区別や線の交差のあるべき姿を理解してから書くべきでしょう。「図」・「悟」・「隸」・「自」などの字に怪しい書き方が目立ちました。書譜の「節筆」がどうしてできたかも踏まえて臨書したいのです。

「悟」・「隸」・「自」などの字に怪しい書き方が目立ちました。書譜の「節筆」がどうしてできたかも踏まえて臨書したいのです。

か な 研 究 部

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



小 峰 美加子

かな研究部 特選 小峰美加子
筆がよく動いて大きさを感じさせる臨書です。特に一首目の切れ味が素晴らしい。渴筆部はもう少しじっくりと穂先をきかせるとさらによくなります。

◎かな研究部総評

本阿弥切の中でも動きの激しい箇所です。1行の中の伸縮や線の太細が見所でしたが、細かい観察が出来ていらない作が多く、残念でした。

| | | | | |
|-----|----|----|----|----|
| 卷之三 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 |
| 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 |
| 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 |
| 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 |
| 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 |

翠幹永
陽生簋

雅勝
泉美子

久幸壽
子雲子

美絢清
艸水耀

| | | | |
|----------|--|---------|----------|
| 土竜う生玉松 | 華も翠大高清竜幸大や高こうた上前竜も大A蒼宗大高崎 | かな研究部特選 | かな研究部成績表 |
| 鼎氣泉の大秀 | 祥く柳阪井月泉扇雲ま井こるか泉橋泉く雲！陽苑雲 | | |
| 川臼今今新青青 | 加新近小鈴松小櫻山黒伊櫻加飯浜中春高岡堀伊込茂磯小峰美加子 | | |
| 崎井村関井木作 | 藤井池野木田本柳東田藤高野村山橋部切藤山木貝シ | | |
| 優綾貴心翠松葵子 | 雅蕙柳萩代嘉龍梅竹京和翠幹久勝雅久幸壽美絢清加子 | | |
| (50音) | 芳雪芳光心子江貞香葉子子陽生董子美泉子雲子艸水耀子 | | |
| 乃泉華實月郷 | | | |
| 紅瑠佳 | 京調東竹清や五春硯石蓮A土洞玉鉤高澄生千玄紅土A硯蕙“高澄大雲こだ大阪 | | |
| 藍澤作 | 橋布伯扇月ま葉汀水晉紅I氣書松扇崎春大葉穹瑠氣I水晝”崎春泉后後小高島武 | | |
| (50音) | 吉行山山大山森富宮松藤平瀬橋野根浪農戸千須藤清柴坂酒酒齋後後藤ふみ由田平本村和口田野澤丸田村山田本村津川田村葉田田水本井井藤藤ふみ由 | | |
| 白珠 | 佑良真炎紀律津満草愛美昌優竹紅陽飛秋翠博陽香祥紀翠里知恵翠良喜子玄子城子江紀秀江子 | | |

洞椿大千高
書翠阪葉陵
入
明龍もあ白幕長澄華長は玉青耕大や澄澄詢高誠澄弘千松や奥正幕生千竹澄 こた A 澄東澄秀誠八八八誠文も松
漢泉くか露張月春仙月せ松蓮雲阪ま春春扇崎和春舟葉村ま田華張大葉扇春”だか I 春絶春明和街戸街和月く村
安安天足會
藤藤羽立木
美多
楊代恵万勇
風子孫介
吉森森本松松増増前平長長沼土德田高高鈴神新新洪洪鹿齋小木北北菊河小大梅梅生字薄宇岩入井市石石石青青
田田田吉村島田田川山谷田井田玉橋野木宮谷行谷田藤林原村又地岡川石原津方田井田崎谷上川渡崎井木木
千 さ 川 内由世か 佳由川
鶴龍藤明陽翠佳華栄だ久千奎弘秋哲幸杏利玉翠満美愛志つ純輝恵春泰星輝星虹代美春春楠洋悠芝紫翠甘澄藤玉子
子博谷香子舟子秀子子峰心枝峯子苑華子枝光華江え風子舟峠峰扇祥翠花華綠麗子花雲景径雨水津枝
樹正八八千た八硯稻八潮蒼大土正た若英高大彩生白古梓福大矯大正樹旭正青安苑伏秀上高大澄陽高八彩華岩生有正 大こ
原華生雲葉か街水毛街音原阪氣華か葉峰崎阪 大扇島江山雲韻阪華原老華峰波書華明泉真阪春陽真街 沢沼大秋華”阪だ
庄柴篠七紫猿佐佐齊齋小小越河工吉北岸岸菊神川川河加金加葛加加鹿小小大梅岩岩岩猪伊板石石石生池五
司田木條雲渡々々藤藤藤田林島川野藤瀬村本田池田本元崎合納岡藤 瀬瀬島野熊森沢山根瀬崎上谷藤垣黒川江駒田
惠 木木由 晴明寺寺喜 知
紫洋美裕煌華町雅美桂杏舞萩夕眞白山彩欣萩東善典南茱綾和順萩春惠晴日裕久加代喜淑久恵祥陽都泰敏青正春洋津萩佳
千子子美右華芳子子昌夢江佳衣草屋雨子蘿子高子江仙美敬子美並美賀子代江子峯園子久子鳳子花浮